

科目名	教育学特殊研究	担当者	キタノ アキオ 北野 秋男	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義は、学問研究を通して人間・社会を科学的に認識し、批判的に分析する能力を、以下のような目標とともに身に付けることを重視する。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな教養・知識に基づく高い倫理観を身に付け、課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応える知識と技能を求める。また、教材を「論理的・批判的」に読む力を身に付け、「問題発見・解決力」を育成する態度や習慣を身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】一次資料を丁寧に読み進める「挑戦力」を身に付け、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行う。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】履修者は、まずは基本教材を丁寧に読み進め、自らの考えや意見をまとめる。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。特別研究指導、もしくは履修者同士で、グループ討論などを行い、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えるといった「コミュニケーション力」も育成する。</p> <p>【学修方法 (LS) と学修時間】教材の熟読、自律的な学習、参考文献の検索と熟読、レポートの作成、掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス (受講者同士が、草稿段階で相互にレポートを点検し、推敲する協働活動を行う)、レポートの草稿段階で何回か修正点を求めるが、その際には謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める「省察力」を育成する。重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。参考文献など挙げる際にも、正確な情報を提示して欲しい。</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものものとする。教材の学修：20時間、レポート執筆：10時間。前期で2本、後期で2本のレポートを提出。・レポート推敲と最終稿の完成 (教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)：15時間。</p>		
スケジュール	<p>提出期日は、manaba-folio ならびに学事記載のとおり。初稿の提出期限は前期が8月末日、後期が12月末日とする。最終的な締め切り日は、学事歴で定められた日とする。通年30コマ分 (半期15コマ分) の内容についてはmanabaにて掲載予定。ガイダンスでは、科目の内容、履修のポイントなどを説明する</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	90%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。
	観察記録	10%	メールのやりとりの回数・内容 (観察記録) なども考慮します。
履修者への要望	<p>指定した参考図書は人間の内面形成 (人格形成) に言及した研究である。可能であれば、一読してもらいたい。レポートは、タイトルを付けて章 (節) に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも4枚以上。草稿を提出して頂ければ、何度でも問題点の指摘を行う。面接を希望する学生がいれば、事前連絡を頂ければ、面接も行う。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 田中智志著 教材名： 『社会性概念の構築』東信堂 3,990円
	19世紀末から20世紀にかけて構築されるアメリカの進歩主義教育思想を支える「社会性概念」の意味内容を理解すること。とりわけ、アメリカの社会構造の変容を理解しながら、ブランボー、カウツ、デューイの進歩主義教育思想を中心に考察すること。日本では「子ども中心主義」（子どもの自然性・自発性）と理解されていた進歩主義教育思想を異なる視点から理解し、新たな知見を得てほしい。
参考図書	田中智志『人格形成概念の誕生』東信堂、2005年（3,600円）
履修上のポイント	アメリカの進歩主義教育思想の形成過程を思想的に理解すること。とりわけ、進歩主義教育思想を支える「社会性概念」の意味内容を理解すること。合わせて、教育思想史研究の視点の置き方、分析の仕方など研究方法上の問題にも着目すること。「子ども中心主義」という既存の評価を覆す筆者の研究方法を学ぶこと。
レポート課題 1	（1）「序章」と「終章」を読んで、本書の課題と結論を考察すること。アメリカの進歩主義教育思想の思想的研究を行う際の目的、課題、研究方法、先行研究批判などを参考としながら、先行研究とは異なる本書の視点を考察すること。 留意点： 研究の目的、方法、課題の設定なども学ぶこと。
レポート課題 2	（2）アメリカの社会構造の変容を理解しながら、ブランボー、カウツ、デューイの進歩主義教育思想を「社会性概念」を中心に考察すること。第2章から第4章まで熟読すること。第1章は、読まなくてもよい。 留意点： 分析の仕方、一次史料の使い方なども学ぶこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 北野秋男編著 教材名： 『現代アメリカの教育アセスメント行政の展開』東信堂 5,040円
	現在、我が国のみならず世界的に学力向上政策が教育改革の中心テーマになっている。本書は、現在のアメリカの州統一テストによる学力向上政策の理論と実態を解明したものであるが、その際の主要な視点は教育内容や学力達成目標としての「スタンダード」、教育政策の説明責任や結果責任を実施主体に求める「アカウンタビリティ」、設定されたスタンダードを評価する「アセスメント」である。現代のアメリカのテスト政策を理解し、我が国の学力向上政策のあり方も検討したい。
参考図書	北野秋男他編『アメリカ教育改革の最前線』学術出版（2012年）、北野秋男『日米のテスト戦略』風間書房（2011年）、大桃敏行編『教育改革の国際比較』ミネルヴァ書房（2007年）。
履修上のポイント	本書の独創的な点は、90年代以降のアメリカ教育改革における学力向上政策の理念的・政策的文脈を整理しながら、全ての児童・生徒の学力を測定・評価するシステムとして機能するテスト政策の理念と実態を解明した点にある。一方、我が国でも2007年からの「全国的な学力テスト」によって、学力向上政策が教育改革の中心テーマとなっている。アメリカの教育改革の動向を概観することは、我が国の学力向上政策のあり方を検討する上で参考となる。なお、日本のテスト政策については参考図書を参照してほしい。
レポート課題 1	（1）アメリカの教育改革とテスト政策の動向を「スタンダード」、「アカウンタビリティ」、「アセスメント」を中心に概観すること。特に、連邦政府の教育改革の動向に注目すること。 留意点： 序章から第2章、第11章を熟読すること。アメリカの教育改革とテスト政策の動向をキーワードを中心に理解すること。
レポート課題 2	（2）マサチューセッツ州の州統一テスト「MCAS」テストの内容とテスト結果を用いた教育政策（学区・学校のランキング化、教員政策、教育財政改革、バイリンガル教育政策など）の実態を理解すること。 留意点： 第3章から第9章までを熟読すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（進歩主義思想）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；「ブランボー」の進歩主義思想について
第 4 回	基本教材 1 の学修；「カウンツ」の進歩主義思想について
第 5 回	基本教材 1 の学修；「デューイ」の進歩主義思想について
第 6 回	参考図書の「人格形成概念」の概念と内容学修
第 7 回	教材の「社会性概念」の概念と内容学修
第 8 回	日本における進歩主義教育思想も理解と課題
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（米国の学力テスト政策）の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；1980 年代以降の米国の教育改革と「学力向上政策」の学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；「1990 年代以降の州統一テスト」と「学力向上政策」の学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；「2000 年代以降の連邦政府の教育改革」と「学力向上政策」の学修
第 6 回	基本教材 2 の学修；米国の「スタンダード」「アカウンタビリティ」「アセスメント」概念の学修
第 7 回	参考図書による米国教育改革構造の学修
第 8 回	参考図書による日米の学力テスト政策の構造的差異の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証